

## 荒木小保護者意見交換会 会議録

- 1 開催日時 令和元年8月18日（日）午前11時～正午
- 2 開催場所 総合福祉会館「やすらぎの里」第3研修室
- 3 出席者 保護者5人、荒木小校長・教頭
- 4 教育委員会 荻原学校教育部長、諸貫教育総務課長、白井主幹、須永主幹  
久積、嶋田、柏瀬

### 5 会議内容

発言者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司会	1 開会
教育総務課長	2 あいさつ
司会	3 見沼中学校区における学校再編成計画及び今後のスケジュールに関する説明
保護者	4 意見等 見沼中学校区の小中一貫教育の研究では、対象校は見沼中学校、荒木小、須加小だったが、今後は北河原小も加わると理解してよいか。
教育総務課長	今年の3月から試験的に荒木小、須加小、北河原小で交流事業を開始し、今年度から本格的に始めた。今年度は交流することがメインだが、来年度は教員に協力をいただきながら、一緒に学校の授業を受けることなども進めていきたい。
保護者	向かっていく姿として、見沼中・北河原小・荒木小・須加小の4校で一つになるということで間違いないか。
教育総務課長	その通りである。その姿になるのが令和4年4月になる。今、子どもは何年生か。
保護者	3年生である。
教育総務課長	そうすると、義務教育学校開校時には6年生になる。英語が授業になるが、小学校と中学校が同じ敷地内にあるので、小学生のうちに中学校の英語教諭が指導するといったことがスムーズにできる。
保護者	再編成後に使用しなくなる学校は、どのように活用されるのか。

教育総務課長	<p>学校は避難所にもなっているので、すぐに校舎等を取り壊して更地にすることはできない。よって、使用できるうちは使用していく。現在の段階で何に使っていくかは決まっておらず、皆さんの意見を聞きながら進めていきたい。荒木小の校舎は、しばらく使用できる見込みである。校舎まで含めて地域の方に使ってもらったり、グラウンドや体育館はスポーツをやるときに使用できたりする。地域の方々にとって、どのような施設が必要になるか、意見を聞きながら考えていく。</p> <p>学校の再編成についての不安などはあるか。</p>
保護者	<p>保護者の間では、授業で体育館やプール、グラウンドを使用するとき小学生と中学生で重なるのではないかという声が上がっている。</p>
教育総務課長	<p>義務教育学校を設置した場合は、体育館やグラウンドを小学生と中学生で共用する形になる。よって、授業の組み方で調整していく。音楽室や理科室などの特別教室で、どのくらいの頻度で授業をやっているのか調べており、大きな問題は生じないだろうと考えている。あるいは、荒木小を使用するといったことも考えられる。見沼中学校は生徒数が少ないので、部活動を実施する部自体も少ないが、部活動をする際は荒木小を使用したり、須加小や北河原小を使用したりすることもできる。そのときは、移動手段を考える必要がある。どのように運営していくかまだ見えない部分もあるが、地域協議会で再編成と義務教育学校の設置について承認が得られれば、具体的な事項を検討していくことになる。</p>
司会	<p>体育館は、小学校と中学校でバスケットゴールの高さが違うといったこともある。小学生でも中学生でも使用しやすいように、必要な改修は行っていく。</p>
教育総務課長	<p>プールの深さも小学生と中学生で違うと思う。小学生が使用するときには、深さが浅くなるように専用の台を沈めて実施していくことも考えられる。また、小学生がグラウンドで遊べるように、遊具を設けることも考えている。</p>
保護者	<p>本日配布された資料の中で、見沼中学校区の再編成後の児童生徒数について示されているが、詳しく教えてほしい。</p>
教育総務課長	<p>一番上の項目が学年。中学生を7年・8年・9年生と示している。令和4年度、5年度、6年度の北河原小・荒木小・須加小の3校の各学年</p>

<p>保護者</p>	<p>の児童の合計と見沼中学校の生徒数を示したものだ。ただ、各地区の子どもの数を単純に合計しているので、今後転居することなどは考慮していない。(各年度の各学年の人数を説明) 中学1年・2年・3年生に相当する7年・8年・9年生の人数は、現在の小学生の人数でそのまま見沼中学校に進学した場合の数として設定している。令和5年度に小学1年生になる児童数は13人であり、荒木小学区の児童数は9人である。現在、他の地区に住んでいる方が戻ってきて増える可能性もある。2クラス編制できる学年もある。</p> <p>学校の再編成は、複式学級が生じている学校だけでなく、市全体で取り組んでいかなければならないので、今回のような再編成計画を策定した。北部地域は既に複式学級が生じているが、星宮小や太田東小も複式学級になってしまうことが想定されている。下忍小学校も児童数は少ない。他の地域も中期的、長期的に見ると学校の再編成はやっていかなければならない。単純に「規模が大きければよい」とは考えていない。小規模でもよさはあると思うが、過小規模で複式学級が生じることは子供たちにとってよいとは思えない。ある程度の人数的中で、勉強や運動ができ、仲間を作るといった環境が子供たちには必要である。</p> <p>小学生が中学校で学校生活を送るようになった場合、小学校1年生から4年生までの校舎が新たに必要であると先日の地域協議会で聞いた。校舎をどこに作るか、費用はどれくらいかかるのか教えてほしい。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>現在の見沼中学校の校舎に小学5年・6年生は入ることができるが、1年生から4年生は入りきれないと考えている。よって、今ある校舎の校庭側に増設する必要がある。市の予算で建設していくが、再編成を伴う場合は国から補助金がもらえる。あるいは、長く子供たちが使用するものなので、市で借入金をして建築することも考えられる。しかし、億単位の費用がかかるだろう。場所については、学校の先生にも意見を伺っている。「校庭を使用するのに支障がないか」「小学1年生から6年生までの交流活動が円滑にできるようにするには、どこに建設したらよいか」など考えている。</p> <p>荒木小の保護者は、見沼中学校で小学生と中学生が共に学校生活を送ることにどんな印象をもっているか。小中一貫教育を進めていく中で、荒木小と見沼中学校の分離型で実施した場合は、児童や教員の移動時間などを考慮しなければならない。一体型であれば、一番スムーズに小中一貫教育を進めることができると考えている。</p>

保護者	<p>これだけ児童数が減っている中で、今までどおりのやり方ではうまくいかないと個人的には思っており、小中一貫教育について、教育委員会が示している考えは、いいアイデアだと思う。各小学校で少人数の中で授業をやっているが、これからある程度の人数の中で学校生活を送ることは子供たちもいい意味で気持ちが違ってくるのではないかと思う。これから生活していく中で、大きな組織で活動していかなければならない。荒木小の児童は、小学1年生から6年生までずっと1クラスで、友人関係も限られてしまう。そういった意味で大きな組織で活動した方が、将来的には子供たちにとってよいのではないかと思う。</p>
教育総務課長	<p>子どもがどんな環境の中で学んでいくのかを考えていくと、ある程度の人数の中で、色々な意見を聞いたり、違う考えの子がいるんだということ認識したりしながら学んでいくことが必要であると考えている。学校再編と小中一貫教育と一緒に考えていくことは、保護者にとって難しいと思う。教育委員会も小中一貫教育の取り組みをスタートしたばかりであるが、これから実際に義務教育学校を視察する中で「どんな問題があるか」を把握し、クリアしていきながら進めていきたい。旧体制の教育課程で子供たちが学んでいくことは、時代の流れに遅れていくのではないかと思う。</p> <p>保護者から「体力的に格差がある小学1年生から中学3年生までが共に学校生活を送ることは危ないんじゃないか」という質問をいただく。しかし、実際に義務教育学校を設置したところでは、中学生のお兄さん・お姉さんが年齢の近い後輩よりも年齢が離れた子どもの面倒をよくみるようになるとのことだ。中学生生活が終わるころに小中一貫教育の効果が表れ、精神的な成長が見られると先日、小中一貫教育やコミュニティ・スクールの研修会を実施したときの講師が話をしていた。中学生が小学生をいじめるといったことは心配しなくてよいとのことだ。</p>
保護者	<p>学校を再編成すれば施設を有効活用できるのではないかと思う。例えば、学校のプールは梅雨が明ける前は、気温が上がらずに使用できない。一方で梅雨が明けると気温が上昇しすぎて使用できないという状況が続いている。大きな施設を複数の学校でそれぞれ管理するのではなく、再編成すれば一つで済むので、効率的だと思う。</p>
教育総務課長	<p>子どもの数に対して、学校の数が多いので、施設の維持管理費がかかってしまっていることは事実だ。分散して投資をするよりも、1箇所を期間を考慮しながら有効活用することを考えていく。</p>

学校教育部次長

プールについても、市町村によっては民間のプールを使用し、学校のプールを使用していないという学校もある。民間のプールであれば、屋内で天候に左右されないというメリットがある。行田が民間のプールを使用するかは、これから考えていく。プールの改修が必要な学校がいくつかあるが、全部を直すことができない状況だ。

体育館のエアコン設置も考えていかなければならない時代だ。今は体育の授業もままならない。また、避難所にもなっているが、夏場はエアコンがないと生活することができない。

これまでは、小学校6年生が小学校で最高学年となるが、義務教育学校では、7年生から9年生が同じ敷地で生活することになるので、小学6年生がリーダーとして活動する機会が減ってしまうという指摘を受けることがある。しかし、小学6年生がリーダーとして下級生を引っ張っていき、活躍する機会を設けることで、その心配は解消できる。

保護者の中には「勉強する内容が義務教育学校になることで変わってしまうのではないかと心配している方もいる。3月の最後の日に修了証書をもらうが、それが9回あるということだ。つまり、それぞれの学年で教わる内容はこれまでと変わらない。他の学校から義務教育学校に転入した場合や、他の学校に転出した場合でも子供たちに支障が出ないようにしていかなければいけないためだ。

乗り入れ授業を行った経験があるが、中学生は小学校時代に教わった教諭を見ると表情が柔らかくなり、逆に小学生が中学校の教員の授業を受けるときには、緊張感をもちながら中学校での授業を意識しているようだった。

今回の学習指導要領の目玉は「主体的、対話的、深い学び」であるが、自分との対話あるいは友人と対話し、他の人の考えを聞くことでもう一度自分で考え直すことが深い学びにつながっていくという点で、義務教育学校は大きな期待を秘めているのではないかと思う。埼玉県内では義務教育学校は春日部市にしか設置していないので、よい点を取り入れながら義務教育学校を開校していきたい。

義務教育学校は、校長は1人だが、春日部市の義務教育学校では、教頭を小学校の部、中学校の部それぞれに配置している。小山市の絹義務教育学校では、養護教諭を小学校の部、中学校の部それぞれに配置している。例えば、小学校の低学年だとお漏らしや、ちょっとしたけがをってしまった場合などに心のケアもしなければならない。中学校では部活動でのけがや熱中症などに対応しなければならない。教員の体制を今後研究し、子供たちが不安なく学校生活を送っていけるような環境をつく

	<p>っていく。</p>
保護者	<p>自分も荒木小で6年間過ごしてきた。再編成したら、学校の名前がなくなってしまうのは残念だ。</p>
教育総務課長	<p>再編成の対象となる学校は全て閉校とし、新しい名前を付けていこうというものだ。特定の地域の名前を付けることは避けたい。皆さんが自分たちの学校だと納得できる名前を付けてほしい。</p>
保護者	<p>「見沼中学校」という名前もなくなると理解してよいか。</p>
教育総務課長	<p>「〇〇義務教育学校」となる。見沼中学校も一度閉校という形になる。</p>
校長	<p>学校とすると、子供たちの不安感やさびしいという気持ちを軽減することが第一だと考えている。子供たちは「どんな友だちがいるかな」「新しい先生はどんな感じかな」と不安を抱えていると思うので、学校として一つ一つ軽減していきたい。</p> <p>子供たちに交流事業を行う理由を「令和4年に北河原小・荒木小・須加小で一緒になる予定だから」と伝えているが、一番不安なのが「予定」ということである。どの段階で、再編成計画を実行するということが決定になるのか教えていただきたい。</p>
教育総務課長	<p>7月30日に見沼中学校区地域協議会を開催した。その中で保護者の意見を聞いた方がよいのではないかといった声があった。本当は大勢の方に参加してほしいだったが、本日、見沼中学校区の義務教育学校を令和4年4月の開校に向けて進めてよいということであれば、8月27日の第2回見沼中学校区地域協議会で決定していきたい。その後、開校に向けての具体的な事項について検討していくことになる。保護者には、機会を捉えて意見を聞く場を設けたい。学校の先生方や保護者の方にも周りの保護者の意見を聞いていただき、何かあれば問い合わせさせていただきたい。</p> <p>5 閉会</p>